

百名山自然ガイド

クマについて

(楽しい山歩きのために)

クマの食事は、柔らかい草の葉や茎、木の実など、植物食が主体です。子グマ連れのお母さんグマは気が立っていてことのほか注意が必要ですが、クマは、クマどうしや他の獣との無用な争いを好まない温厚な性格を本来は持っています。しかし近年、山の中や人里などで問題を起こすことも増えていて、それらにどう向き合うか、知恵が求められています。

クマのフィールドサイン



右後足
右前足
左後足
左前足

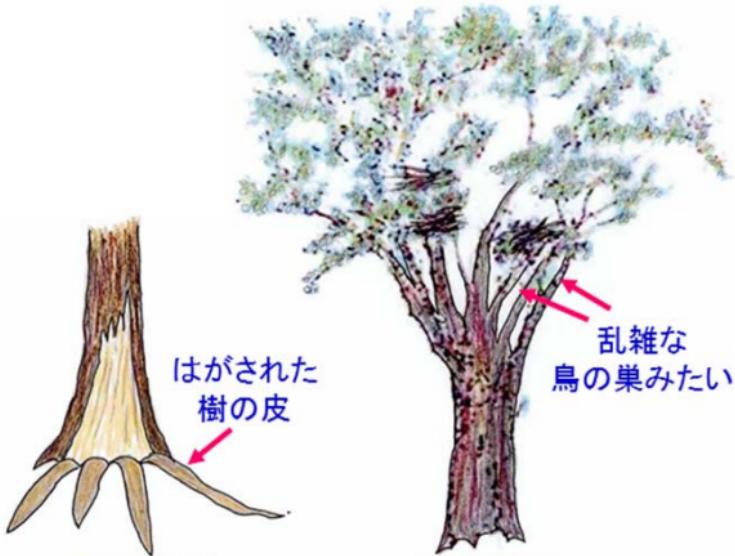
これは早足のあとですが
どういう足運びをすると
こんな足あとが
つくのでしょうか。

色や形は、食べ物
によって様々



足あと

うんち



クマはぎ

クマだな

「人間は怖いから近づいてはいけない」と親から教えてもらわない子グマが世代を重ねています。クマの気配にいち早く気づいてトラブルを避ける努力が、人間の側にも必要になってきました。

クマのフィールドサイン

- 野生動物がそこにいたことを示す自然の中の証拠(しょうこ)をフィールドサインと呼びます。クマにも、代表的なサインがあります。
- 足あと 5本指の大きな足跡は、クマのものと思われます。爪跡がはつきり残ります。人間と違い、親指が特に大きいことはありません。
- うんち 色や形はその時の食べ物によりますが、体の大きさに見合う大きなうんちがあつたら、クマが残したものと思われます。
- クマはぎ 主に春から夏にかけてクマが樹の皮をはぐことがあります。これは「クマはぎ」と呼ばれます。特に夏場、お気に入りの食べ物が少なくなるせいか、樹皮の下の柔らかい部分を前歯で削り取り、食べています。後には、上から下へ、歯の跡が筋になって残っています。
- クマだな クマは木登り上手ですが、細い枝先までは行けません。実りの秋、適当な所まで登って腰をすえ、手近な枝を折って引き寄せ、木の実を食べます。残った枝はその場に積み重ねられますが、それが「クマだな」と呼ばれます。枝を樹の下に落とすこともあります。

クマの樹皮はぎ(クマはぎ)



(撮影・HM)

上から下にはがれた樹皮
バナナの皮むき状態です。



(撮影・HM)

下から上にはがれた樹皮
すだれ状です。



皮をはがされた樹の幹
前歯で幹の表面を削りとった
跡が、筋になっています。

削られた幹にはやがてキノコなど
が取りついでその部分を腐らせ、
長い年月の後、そこが空洞になって
子孫が冬眠するかもしれません。

クマの樹皮はぎは、初めて見てもすぐに分かるクマのサインです。はがされた樹皮の多くは、バナナの皮をむいたときのように樹の根元で幹につながっているか、幹の上方でつながって、たれ下がっています。

クマの樹皮はぎ(クマはぎ)

- クマはぎは、樹皮の内側の樹の幹の柔らかい部分を削って食べるのが目的ですが、中にいる虫をさがすとか、ちょっとした遊びとして、皮をはぐだけの場合もあるのかもしれません。
- クマはぎは、皮がはがれやすいスギ、ヒノキ、カラマツなどに見られることが多いのですが、皮の下の水分や養分の通り道の部分を食べられてしまうのは樹にとって痛手で、林業では大きな困り事です。
- シカも、その角(つの)や口で樹の皮をはぐことがあります、「シカはぎ」と呼ばれます。クマとは違い、樹の根元に皮の断片を散乱させます。

- クマの新鮮なフィールドサインを見つけたときは、予定を変えて引き返すことも考える必要があるかもしれません。行き交う人がまばらかどうか、帰りに同じルートをまた通るのかどうかなど、考えどころです。
- クマを遠ざけるのにはクマ鈴が役立ちます。ただ、人間を怖がらないクマが増えている中で、過信は禁物になってきています。
- 出合い頭での遭遇は、人身被害に直結します。見通しがきかない曲がり道では、意識して音を出すとかゆっくり進むとか、心がけたいものです。

クマに出会ってしまったときは

- クマは、腕っぷしが強くて強力な武器になる爪を持っており、走るのは早いし、木登りも上手、泳ぎもできる、ということで、とても人間がかなう相手ではありません。
- 「死んだふり」という対処は、クマには有効ではないようです。攻撃をされたら、顔や腹部を守るためにうつ伏せになり、致命傷を少しでも防ぐために両手で首をガードすることが勧められています。
- クマに背中を向けて逃げ出す、というのが最悪だと言われます。クマは、逃げる相手を追いかける習性があると聞きます。不意打ちは避けようがありませんが、少し離れて向き合ったときは、クマから目を放さずに静かに後ろに下がるのがよいとされます。
- クマ撃退スプレーというものがあります。ただ、それが有効に届くのは数mくらいでしょうから、使える場面は限られます。それでも、スプレー持参が必須という世の中になってしまふのかもしれません。

(クマスプレーは飛行機には載せられません。安価品も出回っていますが、ヒグマにはもっと強力なEPA登録品が勧められています。しかし人体へのダメージも大きくなり、注意が必要です)



右のアドレスの
QRコードです

「百名山自然ガイド」は、山歩きの楽しみをいっそう大きくすることのお役に立たないかと考えながら、山の美しい自然をいつまでも大切にしていきたいと願う仲間で作成しています。四季の丹沢ほか、各地の案内を下記に順次掲示していきたいと思いますので、機会がありましたら、どうぞご利用ください。

<https://yama3823.com/100meizan/index.html>



同じアドレスの
別のQRコードです

なお、いろいろ思い違いもありそうです。間違いにお気づきのときやご感想など、お寄せいただけると嬉しいです。 yama_3823 @ yama3823.com
(メール送付のときは、添付ファイルはつけないようにお願ひできるでしょうか)

- 食べ物や飲み物、その匂いがついたゴミなどを放置するのは止めましょう。
人間のそばにはごちそうがあるとクマに教えることになってしまいます。
- クマを遠方に見かけたとき、もっとよく見ようとか写真を撮ろうとして近づくのも止めましょう。人が近くにいても動じないクマが増え、人里や市街に出て人身被害や人家の食料、畑の作物などを食べ荒らすことにつながります。
- とりわけ、ドライブ中にクマに会ったときなど。こちらは安全だからといってクマに食べ物を与えるのは厳禁です。その場はよくても、人間の食べ物の味を覚え、将来的に人を襲うクマが出現する芽を育てることになってしまいます。

ある日 くまさんに出会った

「森の熊さん」の日本語歌詞ではメルヘンあふれるお話が展開されますが、
ここでは、比較的古い英語歌詩の一例に訳をつけてみました(KY)。
(この小冊子のネット版には、「日本語訳についてのメモ」を付け加えました)

あるう 日 森のみち 熊さんが 聞いてきた ある日 もりのみ ち 熊さんが聞いてきた
てえぼ お持たないで どおして 逃げない の てっぽお持たない で どおして 逃げない の
それなら 走つ逃げよ でも熊さん 追つて来る それなら 走つ よ でも 熊さん追つて来る
前ほお に樹が見える 大きな樹 助かあた 前方に樹が見え る 大きな樹たすかあた
枝まではテンフィット 運を信じ 跳ばないと 枝まではテンフィイ ト 運を 信じ 跳ばないと
さあ跳んだ 思いきりでもだめだ つかめない さあ跳んだ 思いき り でもだめだつかめない
それでも 良かあた落ちる途中 枝かんだ それでも 良かあ た 落ち途中枝かんだ
覚えとこ 近づくな 駆けっこ好き 熊さんに 覚えとこ 近づく な 駆けっこ好き 熊さんに
こおれで おしまい うたうの 終わあり これでおしまあ 歌うのおおわあり

習性を考えると、クマに背を見せて走るのは良くないとされます。歌詞にはそれを伝えるねらいがあるのかもしれません、樹の上に逃げるのも、クマが登ってきたら大きなリスクになります。

冊子版はここまでとしています。目を通してください
ありがとうございました。、以下の補足は、
ネット版のみに掲示しています。

追記 :

ある日、くまさんに会った：日本語訳

ここでは、比較的古く、元々の歌詞に近いのではないかと思われる一例に訳をつけてみました(KY)。

あるう日 森の径 熊さんが 聞いてきた ある日森の径 熊さんが聞いてきた

「鉄砲 持たないで どおして 逃げないの 鉄砲持たないで どおして逃げないの」

それなら 走って逃げよ でも熊さん 追ってくる それなら走って逃げよ でも熊さん追ってくる

前方に 樹が見える 大きな樹 助かあた 前方に樹が見える 大きな樹助かあた

枝までは 10フィット 運を信じ 跳ばないと 枝までは10フィット 運を信じ飛ばないと

さあ跳んだ 思い切り でもだめだ つかめない さあ跳んだ思い切り でもだめだつかめない

それでも 良かあた 落ちる途中 枝つかんだ それでも良かあた 落ちる途中枝つかんだ

覚えとこ 近づくな 駆けっこ好き 熊さんに 覚えとこ近づくな 駆けっこ好き熊さんに

こおれで おしまい 歌うの 終わあり これでおしまさい 歌うのおおわあり

熊さんは、熊を見たら逃げ出す人間ばかりなのにこの主人公にはそのそぶりが無く、「どうして逃げないの」と疑問を持ったようです。逃げることを勧めながらその人を追いかけるというちぐはぐさが話題になることがあります。原歌詞の作者は、ここで登場する熊さんに、快活で走りまわるのが好きな性格を与えてるので、主人公が走り出した時点で一緒に走りたくなったか、あるいは初めから駆けっこする遊び相手がほしくて逃げることを勧めた、という設定かもしれません。

追記 :

ある日、くまさんに出会った：日本語訳へのメモ(1)

この歌はアメリカで歌われ始めたもので、キャンプファイヤーの歌や幼児の言葉遊びの歌として広まり、親しまれてきました。歌詞が異なるものがいろいろ伝わっており、日本では、ここで取り上げた歌詞とは物語の流れを変えたものが、「森の熊さん」という題名で知られています。

○原歌詞の冒頭を直訳すると「ある日 熊さんに出会った 森の奥 径の途中で」となりますが、ここでは次へのつながりも考えて、「ある日 森の径 熊さんが 聞いてきた」に変えてみました。

○曲のクライマックスで、原歌詞は「跳んだ 空へ向かって」となっています。内容的には同じことの繰り返しですので、ここでは「さあ跳んだ 思い切り」としました。

○目指す枝に飛びつけなかつたところで、原歌詞では「心配しないで 顔しかめないで」という呼びかけが続いています。しかし、ここでは話の流れを単純にして、「それでも 良かあた」という表現で次につなげました。

○続く部分は、原歌詞には「その枝つかんだ 落ちる途中で」とあります。「でもだめだ つかめない」というところでは、聞き手は、手が届く高さまでは跳べなかつたと想像したのではないかと思いますが、ここまで来て、実は十分な高さままで跳べていたのに枝をつかみ損ねたこと、体が落ちかけたところでもう一度枝をつかむチャンスがあり、そこでつかみ直した、という経過だったことが分かります。なかなかはらはらさせる展開です。

追記 :

ある日、くまさんに会った：日本語訳へのメモ（2）

○締めくくり部分、原歌詞は「テニスシューズをはいた熊とは 話をするな」となっています。テニスシューズという言葉を日本語歌詞に収めるのは文字数的に難しいので、それを「動きまわるのが好き」と読み替え、さらに「駆けっこ好き」と改めました。また、今回初めに話しかけてきたのは熊さんの方なので、「話をするな」という締めくくりはぴったりではないように思えます。ここでは、「近づくな」としました。

○「テニスシューズをはいた熊」というのは、歌の終わりになって初めて聞き手に明かされます。冒頭で「テニスシューズをはいた熊に会った」と説明している歌詞も知られていますが、ここで取り上げた歌詞の方が、奥行があるように思っています。

○なおこの部分、原歌詞は、正確には「熊たち」と複数形になっています。そういう（駆けっこ好きな）熊が他にもいる、あるいはいるかもしれないと暗に示していますが、もしかするとこの歌は、背を向けて逃げる者を追いかける習性が熊にはあることを念頭において、やんわりと注意を与える歌だったことも考えられます。

○最後、原歌詞をそのまま訳せば「一体何を もっと歌うの」あたりでしょうが、ここでは言葉を絞り、素朴に「歌うの 終わり」としました。この歌は、森での過去の出来事を主人公が歌い聞かせていますが、ここにきて、主人公の現在の意思が歌詞になっています。この歌を歌ってきた人は、実際には出来事の聞き手の立場にありながら、最後になって歌詞通りの行動を自分自身がさせられ、森での出来事を経験した主人公の立場でもあったという一体感を持たされることになるかもしれません。

クマについて：参考資料（1）

クマについて、目についた資料をいくつか紹介しておきます（2025年10月記）。

- (1)「YAMAP MAGAZINE クマとの共生 1～6（ネット公開）」、経験豊かな筆者から、クマのフィールドサインやクマへの対処など、いろいろ詳しく教えてもらえます。
- (2)「ヒグマ・ノート～ヒグマを知ろう～（小冊子）」ヒグマの会 2020年の発行で、2023年には第7版が印刷されました。A5版冊子31頁に、ヒグマについて知っておきたい知識がいっぱいです。「ヒグマの会」はヒグマの研究や情報発信への貢献を目指して活動しており、そのホームページでも、「ヒグマの生態系」など、専門家による説明がいろいろ見られます。
- (3)「豊かな森の生活者 クマと共存するために（パンフレット、ネット公開）」環境省自然保護局2016年発行、表紙～8頁。クマについての知識や被害状況、対策への指針などが分かり易く紹介されています。
- (4)「このエリアにはクマが暮らしています（パンフレット、ネット公開）」環境省信州自然環境事務所2025年発行。NPO法人信州ツキノワグマ研究会作成（イラストとデザイン・栗谷さと子）。親しみやすいイラストで、クマへの対処が分かり易く呼びかけられています。

クマについて : 参考資料 (2)

クマについて、目についた資料の続きです(2025年10月記)。

(5)「**クマ類の出没対応マニュアル改訂版(2021年)**(冊子、ネット公開)」環境省自然環境局発行。行政の対応指針などを取りまとめた125頁にわたる冊子ですが、「第3章 クマ類に遭遇した際にとるべき行動(72~73頁)」や「第4章 クマ類の生態と現状(77~110頁)」なども取り上げられています。

(6)「**ヒグマ対策の手引き(2024年改訂)**、第1章・ヒグマとは(冊子、ネット公開)」北海道環境生活部自然環境局発行。これもクマ対策に当たる各自治体向けの内容が中心ですが、第1章(5~11頁)からは、ヒグマの基本的な知識が得られます。

(7)「**山でクマに会う方法** (書籍)」米田(まいた)一彦著 山と溪谷社 1996年刊 199頁。ツキノワグマ対策の行政や、クマの行動の研究に力を注いできた著者の経験の数々を知ることができます。

(8)「**野生動物観察事典** (書籍)」、今泉忠明著・平野めぐみ画。東京堂出版 2004年刊 309頁。クマについて書かれている頁はごく一部ですが、他の獣との足跡の違いなど、比較することができます。

(9)「**哺乳類のフィールドサイン観察ガイド** (書籍)」熊谷さとし著・安田守写真。文一出版 2011年刊 143頁。これも、それぞれの動物に割り振られた頁は限られますが、各動物のフィールドサインの写真が豊富に載せられています。

作成記録 : 主な変更点

- 2025年10月作成.